

海

流

かきりゆき
48号・2004夏



たんぽぽの旅立ち

宮本 泰子

山は萌黄色に染まり

人は花に浮かれている頃

たんぽぽの莞毛は風に乗った

空は蒼い

どこまで行こうか

出来るだけ遠くへ行きたい

見知らぬ世界があるかも知れない

住み良い場所を求めて

たんぽぽが夢見ている時

風が止まった

道路に落ちた種は途方にくれた

雨で種は流され

側溝の隙間に落ちた

肥よくではないが僅かな土がある

種は生きられると思った

根を下ろし光りを求めて目を出し

花を咲かせた

たんぼぼの警告

宮本 泰子

老後の安住の地に家を建てた夫婦が
庭に咲いたたんぼぼの奇形に驚いた
不可解な現象に不安になり
夫婦はその家に住めなくなった

最近各地で

奇形のたんぼぼが発見されている

土壌が化学物質で汚染されているからだろうか
たんぼぼは環境に敏感なのかも知れない
原因は解明されていない

人体の影響が懸念され

身体の中に忍び込む

得体の知れない物質に悪寒が走る

たんぼぼは何を警告しているのだろうか

問いかけ

宮本 泰子

どなたか天国の息子の住所を知りませんか
知っていたら教えて下さい

山北みかんや文旦を送りたいから

どなたか天国の息子の電話番号を知りませんか
今日伝えたい事があるので
とつても嬉しい事なのです

どなたか天国の息子の職業を知りませんか
此の世にいた時と同じだったら
聞きたい事があるので

あと何百年もすれば

人工衛星を使って分かる様になるかも知れない
その時私は…

大晦日

森 公宏

何億年ものこの星の歴史からすれば
高々時の一区切りには過ぎないけれど
二十世紀最後の日

一千年前の人々はどんな風に
この区切りを見送ったのだろう

おおつじもり

いつもと同じ時が
いつもよりしつとりと
私の側を通り過ぎて行く

2000/12/31/11:02:58

課題

森 公宏

僕は君が居るから
少しでも幸せな気持ちで居られる
時々は苛ついて不機嫌になるけど
それは僕の甘え
本当は君が居なくなることがとても不安なんだ
大きな夢は一人で見ると
ささやかな夢は君と一緒に見たい
そしてそれは
僕にとっては最優先課題なんだ

明白な不可思議

森 公宏

過去と未来

未来は未知だから
輝いて見えるんだ

でも本当は

過去と未来って

時間軸の正と負の違いでしかない

東か西かの違いと同じなのだ

一番大きな違いといえは

僕らは時間軸を後戻りはできないということだ

これは経験的に言えるだけだが

まず確かなことだ

少なくとも

僕らが生きているうちは